

平成29年度 学校評価総括表

奈良県立奈良朱雀高等学校 (全日制課程)

学校運営計画 (4月)							総合評価	
教育目標		○人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成を目指す。 ○ものづくりとビジネスの実習・演習を通して、技術を身に付け社会に貢献できる生徒の育成を目指す。					B	
学校運営方針		「ものづくりとビジネスの出会いを通して人作り」をスローガンに、高等学校普通教育並びに工業科・商業科等に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせて、産業及び文化の進展に貢献し得る豊かな人間性と自立的な態度を育成するとともに、清新な気風に満ちた魅力ある校風の樹立をめざす。						
昨年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標				
昨年度、奈良朱雀高校10周年を迎えた。大幅な遅刻数減など規則正しい生活習慣は定着しつつある。その一方で、学習習慣が定着していない生徒が少なからず存在する。引き続き、規範意識の向上と、生徒指導の充実を図るとともに、各分掌が連携して、基礎学力の確実な定着と資格・技能検定取得や進路への目的意識を持ち、主体的に粘り強く取り組むことができる生徒を育成する必要がある。また、専門教育活性化の取組など、全職員が教育目標を共有し、職員間のコミュニケーションを大切にして、組織力の強化を図りたい。		(1) 産業人、社会人として必要な資質を身に付け、社会のルールやマナーを守り、主体的に行動できる生徒を育成する。 ----- (2) 部活動の活性化により、目的意識をもち、協働的に粘り強く取り組むことができる体力や精神力、協調性を養う。 ----- (3) 学校が地域と家庭、企業及び大学等の関係機関と連携し、生徒が目的意識をもって学習活動に取り組むことができるよう、教育内容を工夫・改善する。 ----- (4) 専門教育の活性化に取り組む。		地域行事への参加、ボランティア活動等を通じて、生徒の社会性と規範意識の向上を目指し、地域に信頼される学校づくりを推進する。 ----- 身体測定、健康診断、体力テストにより自分の体の状況を把握し、体力の重要性に関する意識付けを行う。 ----- 部活動への加入率を向上させる。 ----- インターンシップにより、勤労観、職業観を育む。 ----- シラバスに基づいた学習活動を展開し、家庭学習の習慣化、基礎学力の定着を図る。 ----- 生徒が主体的に進路選択ができるよう、資格や検定取得の意義を理解し、合格できるよう指導する。 ----- プロジェクトチーム、ワーキンググループを中心として検討、研究する。 ----- 地域、企業、専門学校、大学等と連携した取組の充実を図る。 ----- 職員間、分掌間での意見交流を活性化し、円滑なコミュニケーションを図る。				
教育活動・分掌等	評価項目	具体的方策・評価指標等		自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	課題の改善策等	前年度実績と学校関係者評価
教務	<ul style="list-style-type: none"> 成績不振生徒の減少を図る。 家庭学習の充実を図る。 授業の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1学期成績不振生徒(欠点科目1科目以上)を10%以下にする。 授業アンケートの質問事項、「家庭学習をまったくやっていない」生徒を全学年とも、0%に近づける。 授業アンケートの質問事項、「総合的に言って、この授業に満足している」を「A そう思う・B だいたいそう思う」合わせて80%を目指す。 	B	B	B	1. 第1学期成績不振生徒(欠点科目1科目以上)12.2%、第2学期13.0%であった。成績不振生徒は、97%の生徒が補正される。第2学期は、95%の生徒が補正される。 2. 第1学期中間調査後家庭学習のアンケート結果は、「毎日やった」・「まあまあやった」合わせて65%、「まったくやっていない」5.6%となる。 3. 授業アンケート結果は、質問事項「総合的に言って、この授業にまんざくしている」A そう思う B だいたいそう思う合わせて第1学期79%、第2学期78%となる。	1. 生徒指導部との連携を図り、規則正しい生活習慣を身につけること。また、教科との連携を図り、授業を大切にすることで改善方策とする。 2. 進路指導部との連携を図り、進路実現と継続的学習活動の充実を図る。 3. 各学科、教科との連携を図り研究授業体制をつくる。	成績不振生徒の割合は各学期とも昨年度と比べて微増(1%前後)している。一方で、追調査後の補正率は上昇している。 丁寧な指導により、生徒の学習意欲が喚起され、調査や家庭学習への取組につながるので、引き続き丁寧な指導をお願いしたい。 授業アンケートの結果は昨年度と比較して微減(2%程度)している。新しい高等学校学習指導要領(案)が出される中で、授業内容や方法をお互いに研究し高めていく取組をお願いしたい。

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席防止。(遅刻回数、全体で2000回以内) ・あいさつの励行。(あいさつ運動の展開) ・集会における自転車乗車マナー・通学マナー・電車乗車マナー等向上の啓発。 ・交通安全教室等の実施により、登下校時の安全確保の取組。 ・薬物乱用防止教室実施による「危険ドラッグの問題」についての啓発。 ・情報モラル(スマホ・携帯の利用について)講習の実施。 	A B B B B	B	B	<p>欠席は昨年度より、減少し、遅刻は増加した。</p> <p>通学マナー(自転車・電車等)に関しては、少なからず苦情を受けることがあった。</p> <p>「交通安全教室」を実施。自転車マナーアップ隊による自転車点検等を各学期に2回実施し、交通安全指導に努めた。</p> <p>「薬物乱用防止教室」を実施し、薬物に対する注意喚起をした。</p>	<p>欠席・遅刻等は生徒自身にとって不利になることを日々訴える。進路指導部との連携。周りから愛される学校にするために関係機関との連携を密にする。</p>	<p>前年度の欠席回数 2780回 H29.1月末</p> <p>前年度の遅刻回数 1883回 H29.1月末</p> <p>今年度の欠席回数 2312回 H30.1月末 -468</p> <p>今年度の遅刻回数 1979回 H30.1月末 +96</p> <p>学校前の道路改修により、歩道が一部拡張される。これは地域住民の方の尽力によるところも大きい。学校としても歩きスマホ、自転車マナー等、登下校時の通学マナーについて、地域、関係機関と連携して取り組んで欲しい。</p>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生全員に面接指導を実施する。特に、就職希望者は最低4回行う。 ・国公立大学を含めた専門学校入試の合格者を5名以上にする。 ・卒業までに就職希望者全員の就職先を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路に対する意識を高め、希望の進路が実現できるように指導する。 ・就職希望者に対して面接指導を充実させ、グループディスカッション等にも対応できるようにする。 ・進学希望者に対しては、専門学校入試、公募推薦入試等にも対応できるように講座を充実させる。 	A B A	A B A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の積極的なご協力もあり、面接指導は効果的に実施できたと思う。 ・3年ぶりに国公立大学に合格できたが、専門学校・公募制入試の合格者が目標に届かなかった。 ・学校紹介を希望する就職希望者については、就職先を決定できた。 	<p>ガイダンスを工夫したり(先輩に学ぶなど)、講座を充実させたりして、生徒の意欲を高め、自ら進路決定ができる力を付けさせる。</p>	<p>就職、進学ともに決定状況は良好である。日頃からの指導の成果が現れていると考える。</p> <p>高校卒業時だけでなく、就職、進学後の生活も見据えて進路選択ができるよう、引き続き指導内容や指導方法の開発に当たられたい。</p>
人権教育(特別支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・人権を尊重する心の育成。 ・特別支援体制の共通理解。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権HRを企画・立案する。 ・職員研修、人権講演会を実施する。特に、職員研修(職員全体向け)を年1回以上行う。 ・配慮を要する生徒の把握に努め、教職員、生徒、保護者の共通理解により指導を充実させる。 	A B B	B B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRのテーマは3年間を見通して定め、それに基づいて各学年の年間計画を立て、ほぼ計画通りに行うことができた。昨年度から始めた新たな取り組みについては、その成果を踏まえ継続することができた。 ・全校向けの校内人権啓発集会(今年度は講演会)は、保護者の参加もあり、好評だった。 ・職員研修は最新の人権課題についての報告等を、主に職員会議の場で行った。また就職・進学の近畿統一用紙趣旨違反についての報告を高人教推進委員から行った。 ・年度当初からHR担任と特別支援教育コーディネーターを中心に生徒の状況把握と職員の共通理解を深めることにとめた。また適宜、特別支援委員会を開催し配慮を要する生徒について対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の精選と取り組む方法についての不断の改善。 ・職員研修の質・量ともの充実。 ・HR担任をはじめとする職員の連携の不断の強化。 	<p>新しい取組についても、今年度の内容を検証していく必要がある。</p> <p>人権に関わる課題は、特に新しい視点からのものなど大きく変容している。研修を重ねて、新しい教材の導入も必要となってくると考える。</p> <p>生徒の実態も変化してきているので、きめ細かい対応をお願いしたい。</p>
図書	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動を通して、思春期における豊かな感受性を育み、自己の内面や社会を見つめる機会を持つことによって自己陶冶に努めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のMSRなどを通じて、図書への関心を増すための読書活動を促進する。(目標 アンケート内肯定的評価 80%以上) ・図書館利用の授業を推進し、読書習慣の定着に努める。(目標 図書館利用授業回数延べ10回以上) 	MSR 評価	読書 習慣	図書館 利用	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート肯定的評価81%で昨年度より若干下回る。うち、良かった42%・まあ良かった39%である。 ・3年現代文で図書館利用の調べ学習が実施され、10回程度利用。また図書館の辞書のみ利用した授業は延べ50回程度。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書自体に乗り気でない生徒へのさらなる働きかけが必要。 ・他の授業での図書館利用や自習・補習等での利用も推進する。 	<p>【前年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート肯定的評価 84% ・図書館利用授業回数 10回程度 <p>読書習慣を身につけるための取組を、粘り強く続けていく必要がある。</p>

特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への加入率を上げる。 ・生徒会活動や各種委員会の活性化に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動紹介を魅力あるものとし、部活動勧誘を積極的に行う。 ・部活動に未加入の生徒の集会をする。 ・生徒会役員の自主性を育て、生徒からの発案を引き出す。 ・各委員会の活用方法を生徒会から提案していく。 	B	B	B	<p>全体の部活動の加入率は69%、女子の加入率は50%と昨年度と同じであった。</p> <p>1年生にクラブ未加入者の集会を行った。</p> <p>生徒会役員の立候補者が定数を越えた。</p> <p>広報部員の希望者も多く積極的に生徒会活動を行っている。</p>	<p>クラブ加入率はここ数年同じである。未加入者の集会を続けていく。</p> <p>役割分担を明確にし増えた部員分の活動を考えていく。</p>	<p>部活動に未加入の生徒は放課後どのような活動をしているのかを把握し取り組むことも考えられる。</p> <p>立候補者が増えたことは、意欲的な生徒が増えたと考えられる。生徒会活動のさらなる活性化を期待する。</p>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康保持・増進を高めるため基本的な生活習慣を整えるよう促す。 ・健康調査等の取組みを計画的・継続的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・治療勧告書の意義を周知し、回収率を高める。(学期末懇談における担任と保護者の協力・連携を深める。) ・食育に関するアンケート調査の実施。 ・感染症（特にインフルエンザ）の予防に努める。 	C	C	C	<p>治療勧告書は、昨年度よりも回収率が下がった、今後も継続して再検査や精密検査を勧めるとともに、早期治療に取り組むよう促す。</p> <p>感染症の予防について、保健だよりなどによる啓発を行ったが、インフルエンザB型の流行は食い止められなかった。</p>	<p>担任との連携を密にし、必ず再検査等治療勧告書の提出を保護者に促す。かかりつけ医等から治療の必要性がない場合の報告を考察する。</p>	<p>健康に対する意識を高めるため、授業での取組、担任や学年からの働きかけなど、連携して取り組んで欲しい。</p>
環境整備 (防災管理・安全教育)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化の啓発。 ・防災、安全教育の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別・減量を進める。 ・清掃用具を整備する。 ・植栽活動を行う。 ・花いっぱい運動を実施する。 ・春と秋に「避難訓練」を実施する。 ・1月に「防災HR」を実施する。 	B B B B A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・燃えるごみとPETボトルの分別は、よくできてきた。 ・各クラスのホウキの交換ができた。 ・体育館北側の花壇にフェリックスを植えることができた。 ・道路沿いの花壇の花の植え替えを春・秋に実施できた。 ・避難場所の確認がしっかりとできた。 ・巨大地震に対する意識が高まってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会の活動を活発にする。 ・各クラスで資料を提供し合ってより良いものにしていきたい。 	<p>校内外の美化活動にこれからも美化委員が中心となって欲しい。</p> <p>可能であれば、地域の方々とともに作業する機会があればよいと思う。</p>
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動の展開。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メールを活用した保護者連絡システムを広げる。(目標：1年100% 学校全体 90%) (昨年度：1年95.5%、2年88.1%、3年68.5% 全体82.3%) ・広報活動の工夫。①連絡事項の精選と、緊急連絡と学校行事予定の保護者への周知徹底。②発信内容の精度を増すためのチェック体制の整備。 	A B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度活用率 100%を目指す。 ・今年度は、①連絡事項の選定を行い、緊急連絡と次月の行事予定を行えた ②発信に際しては、複数の人のチェックを受けられたので発信内容の間違いは減った。③保護者へ周知徹底は十分ではなかった。④来年度は部長以外の担当を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定して発信できた。今後も契約会社と連携をとる。 ・さらに保護者へ周知徹底をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年・・・87.0% ・2学年・・・108.7% ・3学年・・・91.0% ・全体・・・95.3% <p>であった。メール登録から脱退する保護者はいなかったため、学年進行で登録状況の改善は図れるが、来年度の1年生は100%を目指し、全体として100%を達成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度はさらに問題点の改善を図る。 <p>学校ホームページ内にある古いデータの更新が必要である。できることから取り組んで欲しい。</p>

機械工学科	<p>・技能検定への積極参加を呼びかけ生徒の進路実現に活かす。 今年度も30名以上の合格を目指す。</p> <p>・インターシップに参加する生徒が40名以上になることを目指す。</p>	<p>・1年次から実習の中での取り組みを継続し、技能検定への積極参加を呼びかけるとともに、教員の働き方改革を進める。</p> <p>・インターシップ受け入れ協力企業を増やし、生徒が選択しやすい環境を整える。</p>	A	B	A	<p>昨年度の38/39名合格を上回る50名が受験した。可否結果は3月16日の予定。</p> <p>働き方改革の一環として、補習を土曜日から平日の放課後に80%を振り替え実施したが、残業が増える結果となった。</p> <p>奈良県機械工業組合から協力の了承は得られたが、参加希望生徒が減少し、35名の参加に留まった。啓発不足や部活動との兼ね合い等により減少した。しかし、インターシップへの強制は禁物と考えている。</p>	<p>仕事量の見直しと共通理解の徹底</p> <p>職員共通理解のもと地道な啓発活動の継続</p>	<p>地域企業と連携した取組を継続して欲しい。</p> <p>ホームページも更新されており、広くその活動を知っていただいている。いろいろな会合でも話題になっている。</p>
建築工学科	<p>・伝統技術・先端技術・起業家育成の3つのコンセプトから取組を行う。</p>	<p>・コンセプトの取組などから本校・本学科で学んでよかったと答える生徒を育てる。 目標 75%以上</p> <p>・その取組がマスコミに掲載されるようにする。 目標 5回以上/年</p>	A	A	A	<p>昨年度程度以上の取組が行えた。卒業アンケートの結果 93.8%であった。生徒の状況に合わせ、さらなる工夫された指導や取組が必要である。</p> <p>コンセプトに対する取組をマスコミに掲載されたものは7回で目標を達成できた。(2/1 現在)</p>	<p>コンセプトに沿って継続して取り組み、新しい展開を図って行く。</p> <p>主要報道機関にも積極的にアピールを行っていく。</p>	<p>生徒の実態は多様であるので、その状況にあわせて、柔軟に取り組んで欲しい。</p> <p>様々なメディアに取り上げていただいた。</p>
情報工学科	<p>・ものづくりに必要とされる資格取得を奨励し、多くの生徒に各種資格・検定への積極的な挑戦をさせる。</p>	<p>・全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰での、マイスター称号を多くの生徒が取得できるよう指導する。 (目標：マイスター10人以上/年)</p> <p>・各種技能検定試験への受験を積極的に勧め、受験者の増加を図るとともに、技能者の技能習得意欲を増進させる。 (目標：合格者10人以上/年)</p>	B	B	B	<p>今年度のマイスター顕彰受賞者は4名であったが、技能検定受験者が格段に増加しているので、来年度は目標達成に近づけると感じている。</p> <p>受験者数は昨年度に比べ、情報配線施工は倍増、電子機器組立は6倍となった。合格発表は3月となる。</p>	<p>資格・検定へのチャレンジ意欲を継続できるよう、引き続き指導方法の改善を行う。学年進行で受験時期を決めて取り組む必要がある。</p>	<p>技能検定受験者が増加しているのは、生徒の意欲が高まってきたことの表れである。取組を継続して欲しい。</p>
商業科	<p>・全商協会主催検定合格率の向上。</p>	<p>・基礎、基本の定着と授業法の工夫及び授業改善に努めるとともに、その成果として全商検定上位合格率の向上を目指す。</p> <p>全商簿記検定1級平均合格率30%</p> <p>全商情報処理検定1級(ビジネス情報)平均合格率30%</p> <p>全商情報処理検定1級(プログラミング)平均合格率30%</p>	B	B	B	<p>今年度の全商検定1級合格者数は延べ113人で前年比7%減少。技能審査による単位認定者数も減少した。簿記1級は22%、情報処理1級ビジネス情報は8%、プログラミングは31%で、目標数値に接近するよう精進したい。</p>	<p>各科目とも、学習環境の充実、課題提出や授業内容の工夫、放課後等の補習指導に重点を置いた。</p>	<p>・前年度は、全商検定1級合格者数と増加単位認定者数は延べ122人、簿記検定1級は22%、情報処理検定1級ビジネス情報部門は26%、プログラミング部門は23%の合格率であった。本年度は全商検定1級取得者数は113名で7%減少した。</p> <p>・目標数値に向けて指導を継続し、引き続き生徒の検定取得に向けての取り組みに期待する。</p> <p>生徒の実態変化も考慮して取り組んで欲しい。</p>

第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立。 ・基礎学力の向上。 ・その他。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行。 ・欠席・遅刻・早退をさせない雰囲気づくり。 ・MSRや授業のはじめの挨拶などをきちんと行い、けじめのある生活。 ・制服のきちんとした着こなしや女子生徒の化粧などを見逃さない粘り強い指導体制。 ・教室の環境整備を含めた学習に集中できる環境づくり。 ・試験前の補習に頼らない、日々の授業の取組の向上。 ・苦手意識を克服させるための粘り強い指導。 ・提出物の徹底。 ・家庭との連携を深め、生徒に関する情報の共有。 ・早い段階での進路目標設定。 ・学校に目を向けさせる指導。 (アルバイトの禁止・部活動、生徒会活動への積極的な参加) 	B B A B B C B A B C B	B B B	MSRについては、どのクラスも定着しており、落ち着いた雰囲気でSHRができています。課題は、挨拶をする生徒に限られていることと、身だしなみが乱れたり、化粧をする生徒が目立ってきたことである。また、学校に目を向けさせられなかった生徒が、長欠につながったことは大きな課題である。遅刻についても、10月から前年度実績を上回るようになり、限られた生徒ではあるが、生活リズムが崩れてきている実態がある。	学校生活の基本はホームルームであるので、両担任が統一した指導をする中で、生徒の不公平感が出ないよう、調整とフォローをしていきたい。	毎朝の登校指導、遅刻・頭髮指導の積み重ねにより、学校全体が落ちつき、教育活動を進めることができている。継続してほしい。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立。 ・基礎学力の向上。 ・その他。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行。 ・遅刻の減少。(前年度総数475) ・特別指導の減少。(前年度B段階以上指導3回) ・女子生徒の化粧をさせない雰囲気づくり。 ・授業態度の向上。 ・提出物の徹底。 ・テスト対策の強化。 ・進路実現にむけての意識を高めていく。 ・クラブ活動の頑張りと学習との両立。 ・アルバイト届の徹底。 ・注意を受けたら素直に聞く姿勢の確立。 	A C B B B B B B B B A	B B B B	基本的生活習慣の確立という目標からは前年度より遅刻の回数が大幅に増えており(12月現在総数554)完全に中だるみの傾向がみられた。また女子生徒の化粧も想定内とはいえ増えてきた。反面授業態度や各種検定や定期考査にむけての取り組み姿勢は向上してきた。特別指導に関してはB段階の指導が3件で前年度とほぼ同じような状況である。アルバイトをする生徒が増加してきたのは家庭の現状を考えるとやむを得ない。	学校生活全般を最終学年に前に気を引き締めて取り組んでいく必要がある。進路実現に向け基本的生活習慣や基礎学力の向上はもちろん各自の将来に向けての意識を高めていく必要がある。	挨拶する生徒が増えたことで、学校が良い雰囲気になり、来校された方や地域の方からも評価いただいている。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立。 ・基礎学力の向上と習得、不認定について。 ・進路実現に向けて。 ・その他。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行。 ・遅刻、欠席、早退をさせない雰囲気づくり。 ・起立、礼、着席。(SHR時机上にカバンを置かない) ・遅刻指導や特別指導の減少に向けて。(学年全体500以下) ・授業態度の向上と欠点を取らない雰囲気づくり。 ・提出物の徹底。(課題レポート、製図、ノート) ・実技に関する科目の理解と確認。 ・全員の進路実現に向けての取組の実施。 ・MSRの弾力的な運用や進路対策模擬テストの実施。 ・進路指導部との綿密な連携。 ・各集会や行事において校歌を歌える取組の実践。 ・最上級生の自覚、奈良朱雀高生としての自覚の高揚。 ・教室整備の徹底。(ロッカー、ゴミ分別、清掃等) 	A B A C B B A A A A B A A	B B B A	全体的に見て挨拶をする生徒が増えている。MSRやSHRが行われていて落ち着いて学校生活が送れているものの進路決定後に学年全体で遅刻500回を超えてしまったことが課題である。年間で振り返ってみると進路決定前と後の取り組みに差が見られた。最終的には4名の卒業保留者を残した。しかし、成績上位者の中には評定平均が、5.0という生徒が出たことも学年としてのよい成果にあげられる。全員の進路実現を目標として取り組んでいる中、就職に関しては1次内定率が90%に達したことは県内の内定率(73%)を20%上回り、学校、進路、学年、各科の面接指導の成果が大きい。学年集会時に校歌斉唱を実施中、男子生徒の大きな声につられ女子生徒からも校歌を歌う生徒が増えてきた。	年度当初からの遅刻生徒にその日の放課後に居残りを実施して遅刻防止に努めていた。昨年に続き学期の成績不振生徒への懇談を実施して成績不振の解消に努めている。また、試験前には放課後勉強会などの実施でかなり助かっている生徒も多い。MSRの運用などあらゆる機会に進路意識の向上に努める必要がある。母校愛や誇りを持たせるための校歌指導は有効的であった。	卒業後の自分の姿を意識し、進路への考察を深めることで、基本的生活習慣が定着し、学習面だけでなく学校生活全体の質が向上すると考える。引き続き学年で組織的に取り組まれない。精神的に支援が必要な生徒が増えてきた。担任、学年、関係分掌で情報を共有し、組織的に取り組んで欲しい。

